

VOICES from the ARCTIC

Vol.23 / 2023. 4.18

ArCS II 国際政治課題
北極域実践コミュニティ事務局

ArCS II
Arctic Challenge for Sustainability II



一部の北極アザラシの環境保護制限を求めるアラスカ州訴訟

アラスカ州は先週、国立海洋漁業局が北極圏の2種類のアザラシの保護区域を過度に拡大したとして、同局を提訴した。州政府は、この保護地域が承認された場合、この地域での建設に追加の許可と規制要件が課され、ノース・スロープでの石油・ガス開発に支障をきたす可能性があるとして述べている。

記事参照：Alaska lawsuit seeks to limit environmental protections for some Arctic seals - ArcticToday (2023.2.22/Arctic Today)



A ringed seal is seen on ice in Alaska, in a 2009 NOAA file photo.
(Michael Cameron / NOAA)

風力発電所をめぐり、トゥンベルグ、先住民のデモ隊がノルウェーエネルギー省を妨害

環境運動家のグレタ・トゥンベルグ氏と数百人の活動家は月曜日、ノルウェーのエネルギー省の入り口を封鎖し、先住民サーミ族のトナカイ牧人が伝統的に使用してきた土地に建設された風車に抗議した。トゥンベルグ氏は、炭素を原料とする電力への依存をなくすことを強く主張し、グリーンエネルギーへの移行は先住民の権利を犠牲にしてまで行うべきものではないと述べた。

記事参照：Thunberg, Indigenous protesters block Norway energy ministry over wind farms - ArcticToday (2023.2.27/Arctic Today)



大気中の河川が北極を襲う頻度が高くなり北極の海氷がますます溶ける



北極圏では、熱帯から高緯度地方へ湿った空気を運ぶ大気中の長く集中した領域である"大気河川"が頻繁に発生するようになり、北極圏の海氷面積を劇的に減少させている。海氷が減れば冬の海運が活発になり、鉱物が手に入るようになるというメリットもあるが、地球温暖化や異常気象の原因となり、北極圏以外にも経済的被害をもたらす。
記事参照：Atmospheric rivers are hitting the Arctic more often, and increasingly melting its sea ice - ArcticToday (2023.2.6/Arctic Today)

ロシア、北極海海底の主張の大半を支えるデータの承認を得る



ロシアは、20年以上にわたる広範な外交と、砕氷船、調査船、潜水艦による極海水下での探査を経て、国連の大陸棚制限委員会（CLCS）から、北極海中央部の海底の権利に関する主張の大部分について承認勧告を受けた。CLCSは国連海洋法条約に基づく機関であり、沿岸国の国境を越えた海底に対する権利に関する主要な国際的権威であるが、2月6日にニューヨークでその結論に達した。
記事参照：Russia gets approval for the data behind much of its Arctic Ocean seabed claim - ArcticToday (2023.2.17/Arctic Today)

ロシアのYamalプロジェクトからの配当を得るのは難しくなっている TotalEnergiesのCEOが語る

フランスの石油メジャー、TotalEnergiesは2022年にロシアのヤマルLNGプロジェクトの株式に対する配当を一部受け取ったが、欧米の対ロシア制裁のため、こうした配当を受け取ることがより複雑になっていると、パトリック・パンヌCEOが2日に述べた。
記事参照：TotalEnergies CEO: It's getting harder to get dividends from Russia's Yamal project - ArcticToday (2023.2.9/Arctic Today)

マイク・スフラガ 米国初の北極圏大使に就任



ジョー・バイデン大統領は月曜日、長年の北極圏専門家でありアラスカ州出身のマイク・スフラガ氏を、米国初の北極圏大使に指名した。この発表は、北極圏が国家安全保障や環境問題で大きくクローズアップされる中で行われた。昨年、ロシアがウクライナに侵攻し、その後スウェーデンとフィンランドが北大西洋条約機構への加盟を申請したことで、この地域の地政学的状況は劇的に変化した。10月に発表されたバイデンの初の国家安全保障戦略でも、北極圏は例年以上に重要な位置を占めている。
記事参照：Sfraga named new Arctic ambassador - ArcticToday (2023.2.13/Arctic Today)

ロシアの鉱山会社ノルニッケル、売上高減少で2022年の純利益が減少

ロシアの鉱山大手ノルニッケルは20日、売上高の減少やサプライチェーンの混乱に対処するため、2022年の金利・税・減価償却前利益（EBITDA）が前年比17%減の87億ドルになったと発表した。ノルニッケルは、パラジウムと精製ニッケルの世界最大の生産会社で、ロシアの北極圏全域に大きな存在感を示している。ウクライナ紛争をめぐる欧米の制裁の直接的な対象にはなっていないが、機材の輸入や海外への輸送問題に直面している。2022年の純利益は前年比16%減の59億ドル、純負債は倍増の98億ドルだったという。

記事参照：Russian miner Nornickel sees 2022 core profit down as sales drop - ArcticToday (2023.2.10/Arctic Today)



An employee works at Nadezhda Metallurgical Plant of Nornickel company, the world's leading nickel and palladium producer, in the Arctic city of Norilsk, Russia August 23, 2021. (Tatyana Makeyeva / Reuters File Photo)

シベリアの永久凍土で発見された3,500年前のクマを科学者が解剖



3,500年もの間、東シベリアの凍てつく原野にほぼ完全な形で保存されていたヒグマが、北極圏の荒涼とした島で発見され、科学者チームにより病理解剖された。シベリア東部のヤクーツクにある北東連邦大学ラザレフ・マンモス博物館研究室の主任マキシム・チェブラソフ氏は「今回の発見は古代ヒグマの完全な死骸という極めて珍しいものだ」と述べた。記事参照：Scientists dissect 3,500-year-old bear discovered in Siberian permafrost - ArcticToday (2023.2.24/Arctic Today)

アラスカのベーリング海の蟹ショック 将来の大きな変化の兆しであると科学者が警告



アラスカ州のベーリング海産ズワイガニの個体数減少により収穫が初めて中止されたことは、前例のないことであり、同州の漁業とそれに依存する地域社会に衝撃を与えた。1月下旬に開催されたアラスカ海洋科学シンポジウムで発表した数人の科学者によれば、このような状況は、アラスカの漁業と地域社会にとって不幸なことに、将来的によくあることだという。

記事参照：Alaska's Bering Sea crab crisis is a sign of big changes in the future, scientists warn - ArcticToday (2023.2.8/Arctic Today)

